

日本教育経営学会

The Japanese Association for the Study of
Educational Administration

第 61 回大会プログラム

The JASEA 61th Annual Conference Program

2021 年 6 月 4 日(金)～ 6 日(日)

オンライン開催(大会校 広島大学)

日本教育経営学会 第 61 回大会実行委員会

主催： 日本教育経営学会

共催： 広島大学教育学部



ご あ い さ つ

日本教育経営学会 第 61 回大会実行委員会

委員長 林 孝（広島大学名誉教授）

日本教育経営学会第 61 回大会（大会校：広島大学）は、2021 年 6 月 4 日（金）から 6 日（日）までの 3 日間の日程と内容というプログラムで開催いたします。残念ながら今大会も、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえてオンラインで開催させて頂くことになりました。

大会では、会員の皆様の研究発表の場である自由研究発表に加え、シンポジウム、課題研究、実践研究フォーラム、ラウンドテーブル、若手研究者のためのフォーラム、特別委員会企画を予定しています。

シンポジウムのテーマは「いま、『教育経営』とは何かを考える」です。今日、「経営（マネジメント）」は実践的にも学術的にも拡がり重要性を増しています。しかしその一方で、それが教育政策の実現のように認識されるようになってきたという現実もあります。そうした状況に鑑みると、「教育経営」という視点・考え方へのこだわりやその固有性が見失われつつあるようにも思われます。このような問題意識から、本シンポジウムでは、「教育経営」という視点・考え方とは何か、その今日的な意義をあらためて問い直したいと考えております。

二年連続でオンラインによる開催となりますが、オンラインの利便性を生かしながら、充実した議論が行えるように、大会実行委員会一同、精一杯努力いたします。皆様のご参加とご理解を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第 61 回大会プログラム 目次

大会日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<u>3</u>	
大会参加について（ご案内）・・・・・・・・	<u>4</u>	
自由研究発表要領・・・・・・・・・・・・・・・・	<u>5</u>	
 【第 1 日】 6 月 4 日（金）		
ラウンドテーブル・・・・・・・・・・・・・・・・	<u>6</u>	
若手研究者のための研究フォーラム・・・・・・・・	<u>7</u>	
 【第 2 日】 6 月 5 日（土）		
自由研究発表 1・・・・・・・・・・・・・・・・	<u>8</u>	
自由研究発表 2・・・・・・・・・・・・・・・・	<u>9</u>	
自由研究発表 3・・・・・・・・・・・・・・・・	<u>10</u>	
自由研究発表 4・・・・・・・・・・・・・・・・	<u>11</u>	
シンポジウム・・・・・・・・・・・・・・・・	<u>12</u>	
総会、オンライン懇親会・・・・・・・・	<u>14</u>	
 【第 3 日】 6 月 6 日（日）		
自由研究発表 5・・・・・・・・・・・・・・・・	<u>15</u>	
自由研究発表 6・・・・・・・・・・・・・・・・	<u>16</u>	
自由研究発表 7・・・・・・・・・・・・・・・・	<u>17</u>	
自由研究発表 8・・・・・・・・・・・・・・・・	<u>18</u>	
COVID-19 対応特別委員会・・・・・・・・	<u>19</u>	
課題研究・・・・・・・・・・・・・・・・	<u>20</u>	
実践研究フォーラム・・・・・・・・	<u>21</u>	
 協賛広告・・・・・・・・・・・・・・・・		<u>22</u>

大会日程

【1日目】6月4日(金)	
13:00～15:00	紀要編集委員会
同上	研究推進委員会
同上	実践推進委員会
同上	国際交流委員会
15:15～17:15	全国理事会
17:30～19:30	○ラウンドテーブル
同上	○若手研究者のための研究フォーラム
【2日目】6月5日(土)	
9:25～12:00	○自由研究発表1～4
12:00～13:30	(昼休み)
13:30～16:30	○シンポジウム
16:45～17:45	総会
18:00～20:00	○オンライン懇親会
【3日目】6月6日(日)	
9:25～12:00	○自由研究発表5～8
12:00～13:30	(昼休み)
12:15～13:15	○COVID-19 対応特別委員会企画※
13:30～16:30	○課題研究
同上	○実践研究フォーラム

非会員の方は、○印のついたイベントにご参加いただけます。

※ 6月6日(日)のCOVID-19 対応特別委員会企画は、昼休み中に行います。

大会参加について（ご案内）

1. 参加申込み

（1）開催方式

日本教育経営学会第 61 回大会は、Zoom によるオンライン開催となります。

（2）大会参加申込み・参加費

【会員】

- ・ 申込みの必要はありません。
- ・ 参加費は無料です。

【非会員】

- ・ Peatix ページから、**5 月 29 日（土）**までにお申込みください。
※なお、コンビニ / ATM でのお支払いは、販売期限の 1 日前（28 日）に締切られます。ご注意ください。
- ・ 参加費は **1,000 円**です。

<https://jasea2021hiroshima61.peatix.com/>

（右記 QR コードからも Peatix ページにアクセス可能です）

※会員のみなさまには、本大会に興味・関心のある方に是非お声かけをいただきますようお願いいたします。



2. 大会参加方法

5 月下旬に、「参加者マニュアル」（ミーティング情報・リンクを含む）を学会ウェブサイトに掲載予定です。

3. その他

第 61 回大会では、紙媒体での「発表要旨集録」を配布せず、学会ウェブサイトからダウンロードしていただきます。6 月初めに、学会ウェブサイトに掲載予定です。

自由研究発表要領

1. 発表時間

自由研究発表の時間は、以下の通りです。

- (1) 発表者が1名の場合：発表時間 20 分＋質疑 5 分(計 25 分)
- (2) 発表者が複数の場合：発表時間 40 分＋質疑 10 分(計 50 分)
- (3) 共同討議の時間は 25 分です。

※共同研究の場合には、プログラムのお名前に○印を付した方が口頭発表者になります。

2. 発表方法

今大会は Zoom での開催となります。発表者は、事前に「**発表者マニュアル**」をご確認頂き、指定された方法での発表をお願いいたします（「発表者マニュアル」は、5 月下旬にメールでお送りします）。

3. 発表資料

発表資料を配布予定の方は、各発表の開始時にチャット欄を通じての配布をお願いいたします。（配布の方法については、「発表者マニュアル」をご確認ください。）

4. 発表の取り止めについて

万一、お申し込んだいた発表を取り止める場合は、必ず事前に大会実行委員会の下記ヘルプデスクまでご連絡ください。発表者が欠席の場合は、発表時間の繰り上げはせず、質疑・休憩の時間に割り当てます。

発表者は、指定発表開始時間にかかわらず、分科会開始時刻の 15 分前までにご入室ください。確認、質問事項がありましたら、下記ヘルプデスクまでお問い合わせください。

なお、今大会では、発表要旨集録の発行をもって発表したものとは見なしません。発表者ご本人の通信トラブルにより発表ができなかった場合も同様ですので、安定した通信環境をご準備ください。

ヘルプデスク(発表の取り止め／技術的なお問合せ)

メール： jasea2021hiroshima61@gmail.com

Phone： 082－424－7197（米沢研究室）

【1日目】 6月4日(金) 17:30~19:30

ラウンドテーブル

「活動」としての「実践研究」を展開するために

これまでの本ラウンドテーブル企画では、学術研究・実践研究・実践報告の相違について検討を進めてきた。学位との対応関係に着目すると、経済学・社会学・心理学等の理論ディシプリンに基づき、計量分析やテキスト分析を実施する Ph.D. 志向の学術研究。学術研究（的論文）に実践ポートフォリオを追加する Ed.D. 志向の実践研究。実践ポートフォリオのみの Ed.S. 志向の実践報告の 3 類型が可能である。本企画を通して、実践研究とは、「モノ」ではなく「活動」であり、職業博士である Ed.D. 取得を志向する人々の研究活動全般を意味するという結論に至った。

実践研究は学術研究を内包する。米国の場合、教育長・校長・指導主事候補者は、指導教員と共に大規模データを収集し、最近の解析手法を用いて、学術研究論文を作成する。その学術研究論文から示唆される点を実践に取り入れてポートフォリオを生成し Ed.D. の取得に至る。学術研究論文の作成においては、APA（AERA）スタンダード（問題・方法・分析・考察型のフォーマット）に従うことが求められる。質的・量的解析技法についても M1 または D1 の時点での習得が求められている。

日本の場合は、実践研究を「モノ」として捉え、その作成にあたり、「執筆者が実践に関与していたかどうか」を問う。学術研究要素が含まれることは稀であり、データや解析方法の質に問題が生じる。結局、APA フォーマットに合致すれば実践研究、そうでなければ実践報告のような区分論に至ってしまう。

我々は、数年前から日本における Ed.D. の導入・拡充を継続的に主張している。学術研究と実践報告（ポートフォリオ）を内包した活動としての実践研究を、職業博士課程取得が可能な大学院に設置することで、教職大学院（リーダーコース等）の課題研究の質も大きく変容するものと期待される。それでは、日本において Ed.D. 志向の研究活動（指導）をどのように進めればよいのか。最終回となる本年度は、我々提案者が苦悶しながら進めている現職教員を対象とした研究指導の一例を紹介する。

- ・ A 市内全教員を対象としたパネルデータの分析事例
- ・ B 市 2018 年度全初任者コーホートの 3 カ年縦断調査の分析事例
- ・ 研究指定校のアクションリサーチ
 - 指定終了後のマイリーダーシップの自己分析 —

話題提供者：露口 健司（愛媛大学）
倉本 哲男（横浜国立大学）

【1日目】 6月4日(金) 17:30~19:30

若手研究者のための研究フォーラム

若手研究者が考える教育経営学への期待と問い ー教育経営学の知的蓄積をどう継承し、いかに刷新していくかー

【趣旨説明】

若手研究者のための研究フォーラム（前身「若手研究者のためのラウンドテーブル」）は、これまで、近年の本学会や他学会の動向を視野に入れつつ、若手研究者を取り巻く研究環境に関する検討や、若手から見た教育経営学における新たな研究課題および方法の探索などを重ねてきた。第4期となる今期（2019年～2021年）は、こうした蓄積を踏まえ、また、その発展を期して、若手研究者が教育経営学の知的蓄積をどう継承し、いかに刷新していくかをテーマに、探究を進めていきたい。今期も引き続き、大会の議論の軸は次の2点とする。

第一に、従来の知的蓄積といかに対話・格闘する／してきたかを題材に、教育経営学の課題と展望について検討することである。若手研究者のなかで教育経営学を語るための「共通言語」が乏しくなりつつあること等の課題を念頭に、知的蓄積との接続・刷新に向けた論点や課題の抽出・共有を目指したい。

第二に、若手研究者のなかの〈教育経営学〉像、すなわち自身の関わり方をも含めた教育経営学への意識の持ち方について意見交換することである。学会において若手研究者が集うことの意味・意義を踏まえ、教育経営学の課題や魅力について再発見する場としていきたい。

以上を通じて、若手研究者から教育経営学への期待と問いを発信し、学会の未来を見据えながら、先行世代との対話につなげていくことを目指す。

今年度も2名の若手研究者の話題提供を予定している。雪丸会員からは教育経営学という学問が貢献しようとすることの曖昧さについて、藤村会員からは学問の有用性に対するニーズが高まる中で、教育経営学研究とどう向き合っていくのかについて、それぞれ報告する。話題提供後はフロアを交えて意見交換を行う。

なお、今期は若手ネットワーク担当の末松裕基（東京学芸大学）に加えて、世話人を榎景子（長崎大学）と山本遼（大分大学）が担当している。

【話題提供者】

1. 教育経営学は学習者を幸せにするのか

雪丸 武彦（西南学院大学）

2. 教育経営学への問いー学問の有用性とどう向き合うかー

藤村 祐子（滋賀大学）

【司会】 榎 景子（長崎大学）、山本 遼（大分大学）

（企画・文責：榎 景子、山本 遼）

【2日目】 6月5日(土) 9:25～12:00

自由研究発表 1

【司会】 植田 健男（花園大学）
辻野けんま（大阪市立大学）

9:25～9:30	司会挨拶
9:30～9:55	地域総がかりによる子ども育成における当事者意識の醸成に関する研究 －A市のコミュニティ・スクールの事例より－ 諏訪 英広（川崎医療福祉大学） ○大天 真由美（兵庫教育大学・院生） 真弓（田中）真秀（大阪教育大学）
9:55～10:20	21世紀における社会とつながる学習体系の探求・組織化に関する考察 －参加体験型音楽学習イベントに着目して－ ○岡村 千恵子（京都外国語大学）
10:20～10:45	ドイツ民主主義教育における生徒参加の類型化に関する研究 ○柳澤 良明（香川大学）
10:45～11:35	「社会に開かれた教育課程」に向けた学校と地域の連携・協働 －大人と子どもでつくるコミュニティ計画策定を起点に－ ○野村 ゆかり（高知市立潮江南小学校教諭、兵庫教育大学大学院修了生） ○押田 貴久（兵庫教育大学）
11:35～12:00	共同討議

【2日目】 6月5日(土) 9:25～12:00

自由研究発表 2

【司会】 加藤 崇英（茨城大学）
篠原 岳司（北海道大学）

9:25～9:30	司会挨拶
9:30～9:55	K. E. ワイクの「森林火災と戦う」メタファーにもとづく学校の危機管理に関する考察 ○田中 直哉（石川県立小松特別支援学校、広島大学大学院・院生）
9:55～10:20	養護教諭の役割に関する社会学的考察 －コロナ禍の中の養護教諭－ ○篠原 清夫（三育学院大学）
10:20～10:45	学校危機管理におけるレジリエンス－その概念の検討 ○福本 昌之（広島市立大学）
10:45～11:35	学校の危機対応にみる分散型リーダーシップ ○織田 泰幸（三重大学） ○雲尾 周（新潟大学） ○鈴木 瞬（金沢大学）
11:35～12:00	共同討議

【2日目】 6月5日(土) 9:25~12:00

自由研究発表 3

【司会】 榊原 禎宏（京都教育大学）
平井 貴美代（山梨大学）

9:25~9:30	司会挨拶
9:30~9:55	教職大学院実務家教員のライフコースと教職アイデンティティー ○田中 満公子（大阪教育大学）
9:55~10:20	市町村教育委員会事務局職員の専門的資質能力を育てる人事施策 ○堀籠 康行（北海道紋別市教育委員会、兵庫教育大学大学院修了生）
10:20~10:45	学校管理職・主任層の労働時間が年次有給休暇取得に及ぼす影響 －教職員支援機構研修受講者調査の分析－ ○神林 寿幸（明星大学） 廣谷 貴明（社会情報大学院大学） 青木 栄一（東北大学）
10:45~11:10	高校教員のキャリア資本とウェルビーイングの関係 ○露口 健司（愛媛大学）
11:10~11:35	追跡調査からみる教員の職場適応と職能形成 ○妹尾 渉（国立教育政策研究所）
11:35~12:00	共同討議

【2日目】 6月5日(土) 9:25～12:00

自由研究発表 4

【司会】 牛渡 淳（仙台白百合女子大学）
竺沙 知章（京都教育大学）

9:25～9:30	司会挨拶
9:30～9:55	
9:55～10:20	学校事務職員の「育成指標」に関する考察 ○熊丸真太郎（大分大学）
10:20～10:45	教員に必要な資質能力に関する研究 －教員育成指標の動向を視野に入れて－ ○山崎 保寿（松本大学教職センター）
10:45～11:35	学校管理職スタンダードに関する国際比較研究 －テキストマイニングの結果を参照して－ ○佐藤 博志（筑波大学） ○植田みどり（国立教育政策研究所） ○貞広 斎子（千葉大学） ○末富 芳（日本大学） ○高橋 望（群馬大学） ○照屋 翔大（沖縄国際大学） ○西野 倫世（大阪産業大学） ○櫻井 直輝（会津大学短期大学部） ○阿内 春生（福島大学）
11:35～12:00	共同討議

【2日目】 6月5日(土) 13:30~16:30

シンポジウム

いま、「教育経営」とは何かを考える

【企画趣旨】

いま、「経営」（教育経営、学校経営、マネジメントなど）は、実践的にも学術的にも、拡がり重要性を増している。たとえば、全国の教員育成指標を見てもわかるように、管理職だけではなく、すべての教職員にとって、マネジメントは不可欠なものだと捉えられるようになった。拡充期にある教職大学院においても、学校経営・マネジメントの教育は重要な位置を占めている。また、他の研究分野でもマネジメントが言及されるようになった（カリキュラム・マネジメントなど）。こうした中、「教育経営の研究と実践の促進し、その普及を図ること」を目的とする本学会は、「教育経営」という冠のもと、さまざまな分野の研究者、教職大学院の実務家教員や現職院生、大学に勤務する者だけでなく、学校や教育委員会やさまざまなフィールドにおいてその研究と実践に関心をもつ者など、多様な立場からの参加が可能な、間口の広い学会となっている。

しかしその一方で、「教育経営」へのこだわりが失われつつあるように思われる。たとえば、「教育経営」が教育政策の実現と同義であるかのように認識されることに違和感を覚えない傾向が強まりつつある。また、「教育経営学の知的蓄積をどう継承し、いかに刷新していくか」をテーマとした昨年度の「若手研究者のための研究フォーラム」では、先行世代から「自身が教育経営学をしなければならないという切実な問いは何か」「仮にこの学会がなくて誰が困るのか」という根本的な問いが投げかけられた（フォーラムのまとめは『教育経営学会紀要』第63号に掲載予定）。

そこで、本シンポジウムは、「教育経営」という視点や考え方とは何か、何をもって「教育経営」の探究（研究、実践、教育）と言えるのか、その面白さや固有性はどこにあるのか、その今日的な意義は何かをあらためて問い直していきたい。

そもそも本学会は、文部省対日教組の対立図式のなか、「法規の請け負的」な「従来の経営観」にとらわれずに全く新しい教育経営の考え方なり技術なりを創造的に開拓することを目指して1958（昭和33）年に創設された（教育経営学会編『学校経営の基本問題』明治図書、1959年）。学会発起人の一人であった高野桂一（元日本教育経営学会会長）は「教育経営」への期待を次のように述べている。

「教育経営という用語が台頭したもともとのいきさつには教育活動の条件整備を、よりいっそう教育のリアルな現実態（場面）に密着させてとらえ、よりいっそう教育の本質にそくして行うという意図や動機があった。学校をはじめとする教育現場こそが教育経営の本源的な機能発生場なのであり、教育行政の行う経営が

第一義とされてはならないという意味においてである。」（高野桂一「教育経営概念の検討『日本教育経営学会紀要』第25号、1983年。」）

その後、教育経営（学）は、学校経営の現代化（合理化と民主化）、自律的学校経営、研究と実践の関係性の再考（臨床的アプローチ）、近年の教育改革や大学改革、等々の学術的、政策的、実践的な展開を経て、“いま”に至っている。

本シンポジウムでは、登壇者の「教育経営」にかかわる探究（研究、実践、教育）の歩みを足場にして、「教育経営」の“いま”をどのように捉えているか（捉えるべきか）、「教育経営」を探究するうえでの（切実な）問いは何か、“そもそも”「教育経営」という視点・考え方とは何か、何をもって「教育経営」の探究と言えるのかを考えたい。そして、若手研究者や現職教員・実務家をはじめとする様々な関係者との対話・議論を通して、「教育経営」の“これから”を探究する契機にしたい。

（文責：曾余田浩史）

〈登壇者〉

佐古秀一（鳴門教育大学）

組織論をもとに、学校の内発的改善力を高めるための組織開発方法論とその知見をもとにした学校組織マネジメントの教育プログラムの開発と実践を探究してきている。現在、本学会会長。

木岡一明（名城大学）

学校評価の研究から始まり、「学校組織マネジメント研修」（文部科学省、モデル・カリキュラム）の開発・普及・実践などを通して、教育マネジメントを探究してきている。

南部初世（名古屋大学）

「教育行政」概念との関連性での「教育経営」概念再構築など、学校と教育行政との関係に着目し、「学校の自律性」を保障する教育経営システムの理論的構築を探究してきている。

〈司会〉

曾余田浩史（広島大学）

末松裕基（東京学芸大学）

若手研究者のための研究フォーラム担当

【2日目】 6月5日(土) 16:45~17:45

総 会(学会員のみ)

総会を欠席する会員は、次の URL にアクセスして、「委任状」を必ず事前にご提出ください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdWEV7wPhugNB4mya7ZOor1-mzO3PiblzDtrQBdqVRrsZjklA/viewform?usp=sf_link

(下記のQRコードからもアクセス可能です。)



【2日目】 6月5日(土) 18:00~20:00

オンライン懇親会

Zoom でのオンライン懇親会を開催いたします。

詳しくは、「参加者マニュアル」をご確認ください（「参加者マニュアル」は、5月下旬に学会ウェブサイトに掲載いたします）。

【3日目】 6月6日(日) 9:25～11:35

自由研究発表 5

【司会】 北神 正行（国士舘大学）
高瀬 淳（岡山大学）

9:25～9:30	司会挨拶
9:30～9:55	広域人事異動が教頭の職能開発に与える影響に関する一考察 －A県における定量分析を通して－ ○西山 高史（兵庫教育大学大学院生）
9:55～10:20	中国における校本課程開発の実施に伴う校長職の役割期待変容 －1995年創刊の雑誌『中小学校校長』の分析を通して－ ○史 嘉宜（筑波大学・院生）
10:20～11:10	中国・韓国における校長職任用前の力量形成に関する研究 －東アジア的校長像模索の可能性 ○張 揚（北海道大学） ○森 貞美（聖徳大学） ○張 信愛（関東学園大学） 山下 晃一（神戸大学） 高野 貴大（茨城大学） 史 嘉宜（筑波大学・院生） 浜田 博文（筑波大学）
11:10～11:35	共同討議

【3日目】 6月6日(日) 9:25～11:35

自由研究発表 6

【司会】 勝野 正章（東京大学）
安藤 知子（上越教育大学）

9:25～9:30	司会挨拶
9:30～9:55	小学校教授組織改革の現代的特徴に関する事例研究 －改革のねらいと内容に焦点をあてて－ ○藤垣 結髪（筑波大学・院生）
9:55～10:20	埼玉県立学校における「令和の日本型学校教育」実現のための一方策 －ネットワーク・リーダーとしての教頭の役割 ○永島 誠（埼玉県立春日部東高等学校）
10:20～10:45	学校づくり論にみるデザインの原理に関する考察(2) －東井義雄の学校づくりに着目して－ 曾余田 浩史（広島大学） ○曾余田 順子
10:45～11:10	中堅教諭の上方影響力発揮可能性に関する考察 ○波多江 俊介（熊本学園大学） 妹尾 渉（国立教育政策研究所）
11:10～11:35	共同討議

【3日目】 6月6日(日) 9:25～11:35

自由研究発表 7

【司会】 高妻 紳二郎 (福岡大学)
坂野 慎二 (玉川大学)

9:25～9:30	司会挨拶
9:30～9:55	中国における「薄弱学校」概念の変遷と現代的意義 ○毛 月 (筑波大学大学院・院生)
9:55～10:20	イギリスにおける Teaching Assistant を活用した学校経営 ○植田 みどり (国立教育政策研究所)
10:20～10:45	期待一価値モデルによる「効果的な学校」 ○本図 愛実 (宮城教育大学)
10:45～11:10	米国チャータースクールに対するオーソライザーによる評価・支援に関する研究 ○湯藤 定宗 (玉川大学) 福本 昌之 (広島市立大学) 諏訪 英広 (川崎医療福祉大学)
11:10～11:35	共同討議

【3日目】 6月6日(日) 9:25～12:00

自由研究発表 8

【司会】 武井 敦史（静岡大学）
高谷 哲也（鹿児島大学）

9:25～9:30	司会挨拶
9:30～9:55	教育課程の経営過程における子どもの位置に関する事例分析 ○鈴木 草宮駒（名古屋大学・院生）
9:55～10:20	PBL 実践が私立高校の学校経営に与える影響 ○中井 咲貴子（追手門学院大学）
10:20～10:45	学校と伴走するアクションリサーチ －総合的な学習(探究)の時間が学校を変える－ ○滋野 哲秀（龍谷大学／京都教育大学）
10:45～11:35	「ブーム」が過ぎ去った教育施策の顛末 ○眞弓（田中）真秀（大阪教育大学） ○佐久間 邦友（日本大学）
11:35～12:00	共同討議

【3日目】 6月6日(日) 12:15~13:15

COVID-19 対応特別委員会企画

地方教育行政と学校は「一斉休校」にいかに対応したか

【企画趣旨】

本企画は「新型コロナウイルス感染症対策に伴う教育経営課題に関する特別委員会」（略称：COVID-19 対応特別委員会）による研究活動報告、そして会員各位との問題共有および交流を目的に企画されたものである。

同委員会は、COVID-19 感染拡大に伴う学校教育の諸課題を教育経営の観点から明らかにすることを目的に昨年 9 月に発足した。この諸課題の解明を通し、ポスト・コロナ（ウィズ・コロナ）の教育経営の実践に対する示唆を得ると共に、これからの教育経営研究に関する新たな視点を得るべく研究に着手している。

本企画では、COVID-19 対応特別委員会の各委員が進める地方教育行政ならびに教育関係機関調査について話題提供し、いくつかの論点提示を試みる。また、会員各位の感想や意見の交流ならびに情報提供等を受けて、本特別委員会が進める「マンスリー研究会」企画等に反映させ、本学会における継続的な議論へと結びつけていく。

会員各位には、昼の限られた時間での開催であるため、ランチや休憩を適宜取られながら参加いただけると幸いである。

〈話題提供〉

篠原 岳司（北海道大学）「北海道・札幌市他自治体の状況から」

柏木 智子（立命館大学）「兵庫県・熊本市他自治体の状況から」

元兼 正浩（九州大学）「福岡県・北九州市の状況から」（紙面報告）

〈司会〉

佐藤 博志（筑波大学）

【3日目】 6月6日(日) 13:30~16:30

課 題 研 究

実践の学としての教育経営学研究の固有性を問う(3) －現代的有意義性の視点から－

【課題設定の趣旨】

今期の研究推進委員会では、実践の学としての教育経営学の「固有性」の追究を中心課題としてきた。1年目には、教育経営実践のリアリティに迫るうえで、研究者と研究対象との間に生じる「政治性」の直視が不可避であることを確認し、2年目には、実践性と表裏の関係にある「科学性」に着目し、価値不可分性、再現可能性、参照可能性の観点から、教育経営学研究の学術的な固有性の内実を問うことを試みた。3年目となる今回は、現代的有意義性という視点からのアプローチを試みる。

「現代」や「有意義」の語を挙げる理由は、大きく言えば、教育経営学の研究者や研究対象を取り巻く環境が変わってきていることに対する、教育経営学のイナクトメント(enactment; Weick, K. E. (1979))の側面を掘り下げたいからである。例えば、教職大学院の現職院生のように、アクションリサーチが容易な立場の研究者が登場する一方で、若手研究者のように、就職に向けて博士号の取得といった、短期間での活字成果を要求される研究者もいる。また、自律的な学校経営とは何かという概念や理念の追究が相対的に後退し、エビデンスベースドや費用対効果といった、投資に見合う成果に貢献する研究への期待が高まってきている。こうした、研究対象との関係性、成果に至るまでの時間的猶予、研究結果の志向性(普遍性⇔特殊性)などが、研究テーマのみならず研究者のキャリアや世代によっても差異が大きくなってきているところに、教育経営学研究を取り巻く環境の現代的特徴を指摘できる。研究(者)に対して、体質改善を図る漢方医的役割と今すぐの根治を実現するスーパードクター的役割のどちらのニーズもあるものの、いずれであれ、実践の側(自治体や学校・教職員等)から効果や意義を認められて「学」としての承認を得る時代になったことも、現代的特徴の1つに挙げられよう。これらの環境変化を踏まえて、実践の学としての教育経営学研究の固有性に迫る。

(文責: 臼井智美)

〈報告〉山下 晃一(神戸大学): 改めて教育経営学の学問的特質を考えるために

元兼 正浩(九州大学): 実践科学としての教育経営学を構想するために

〈指定討論〉佐古 秀一(鳴門教育大学)

〈司会〉臼井 智美(大阪教育大学)

武井 哲郎(立命館大学)

【3日目】 6月6日(日) 13:30~16:30

実践研究フォーラム

教職大学院におけるスクールリーダー教育に関する 構成原理の検討とプログラム開発 3

—「プログラム作成・改定にあたっての手引き」の提案—

【課題設定の趣旨】

第5期実践推進委員会（以下「本委員会」）は、教職大学院がスクールリーダー（以下「SL」）教育の中心的役割を担うことが期待される状況において、「教職大学院におけるSL教育に関する構成原理の検討とプログラム開発」をミッションとして活動してきた。1年目のフォーラムでは、わが国の大学院、特に教職大学院におけるSL教育の展開過程（研究と実践）のレビュー、全国教職大学院におけるSL教育の提供実態、国内外のSL教育の具体事例に基づき、本委員会が取り組むべき方向性とその内容等について協議した。2年目のフォーラムでは、各教職大学院のSL教育プログラムのデザイン・原理の実態、教職大学院と教育委員会のSL教育の実態、他専門職大学院、特にMBAのリーダー教育の実態に関する調査結果に基づき、「ワンベストシステムではなく、今後、新たに教職大学院を立ち上げる、あるいは現在のSL教育プログラムを改訂（主として後者を想定）する際の『拠り所・参照』となり得るもの」のイメージや内容等について協議した。そこで3年目（最終年）のフォーラム（「本フォーラム」）では、これまでの活動の成果として、「SL教育プログラム作成・改定にあたっての手引き」を提案し、その有効性や課題、改善の方向性等について幅広く協議したい。報告者、ゲスト、司会者は以下の通りである。

趣旨説明：本委員会のミッションと本フォーラムのねらい

（大竹 晋吾：福岡教育大学：副委員長）

活動経過と「SL教育プログラム作成・改定にあたっての手引き」の提案概要

（諏訪 英広：川崎医療福祉大学：委員長）

提案1「SL教育で育成する知の種類」

大林 正史（鳴門教育大学）

提案2「SL教育プログラムに対するアドバイザー事業（仮称）」

大竹 晋吾（福岡教育大学）

トークセッション：ゲスト

水本 徳明（同志社女子大学・京都教育大学大学院連合教職実践研究科）

加藤 崇英（茨城大学）

菅原 至（上越教育大学）

猿樂 隆司（福岡県教育委員会）

司会者 福本 みちよ（東京学芸大学） 川上 泰彦（兵庫教育大学）

教育学関係学術図書のご案内

価格は税込。

アメリカ教育長職の役割と職能開発

八尾坂修編著 3300円
アメリカ教育長職の役割と職能開発を体系的に考察。教育長職のリーダーとしての資質や能力を高めるために、今後の日本における教育長職開発への示唆を提示する。

教育における指導ラウンド

ハーバードのチャレンジ
R. エルモア・L. テイテル他著 八尾坂修監訳 3080円
「指導ラウンドネットワーク」と呼ばれる新たな学びの方法を開発。「質の高い効果的な指導」についての共通認識を育み、組織的能力を高めるプロセスを紹介。

教育経営における責任・統制構造に関する研究

三浦 智子著 8250円
我が国における教育経営の統制と責任の構造について実態を解明。学校の「アカウンタビリティ」の保障を図る上で、その構造が抱える課題について検討を試みる。

産業教育学

三好 信浩著 2750円
著者長年の研究成果から、産業界と教育界の協力を不可欠な新しい学問領域「産業教育学」を確立。刻々と変化していく産業社会に対応するための人間育成論を展開。

占領期日本における学校評価政策に関する研究

福嶋 尚子著 12650円
占領期の日本で展開されてきた新制高等学校の学校評価政策を素材とし、学校の水準保障を目的とする政策構想と政策過程について解明する。

ウイネトカ・プランにおける教職大学院の成立過程

宮野 尚著 8250円
本書は、ウイネトカ公立学校の改革の中で、現職教師が主体となり教職大学院を創設していく過程を明らかにし、その意義を考察したものである。

米国社会科成立期におけるシティズンシップ教育の変容

齊藤仁一朗著 9900円
20世紀初頭の米国でなぜ「社会科」が誕生したのか？市民育成を主目的に掲げる教科誕生の過程に注目し、「市民」を育てる教育が抱える包摂と排除の論理を描き出す。

コミュニティ・スクールの全貌

佐藤晴雄編著 4400円
コミュニティ・スクールの活動実態や校長の意識を明らかにした最新の調査を取りあげ、その有効性と課題を考察。今後の政策・実践や研究に資するデータを示した。

現代米国の教員団体と教育労働法制改革

高橋 哲著 8800円
労働法をモデルとして形成された米国の教員法制。そこで展開された教員団体の運動を手がかりに、教師の労働基本権と専門職性をめぐる問題を検討する。

教員自主研修法制的展開と改革への展望

久保富三夫著 12650円
前著「戦後日本教員研修制度成立過程の研究」を基盤に、戦後自主研修法制的展開を歴史的・原理的・総合的に考察。「学び続ける教員像」実現のための著者渾身の提言。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風間書房

(URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp

日本の大学経営——自律的・協働的改革をめざして 両角重希子著 A5・上製・四二四頁・四二九〇円 学長リーダーシップの条件 両角重希子編著 A5・並製・二一六頁・二八六〇円 大学経営・政策入門 東京大学 大学経営・政策コース編 A5・並製・二八〇頁・二六四〇円 大学の組織とガバナンス 羽田貴史著 A5・上製・三三六頁・三八五〇円 科学技術社会と大学の倫理 羽田貴史著 A5・上製・二九六頁・三三二〇円 大学改革の処方箋——中長期計画推進・教育改善・職員力向上 篠田道夫著 A5・並製・二一六頁・二五三〇円 2040年 大学よ甦れ——カギは自律的改革と創造的連携にある 田中弘充・佐藤博明・由原博人著 A5・上製・二四〇頁・二六四〇円 教学マネジメントと内部質保証の実質化 大学基準協会監修 永田恭介・山崎光悦編著 A5・上製・三四四頁・三三二〇円 2040年 大学教育の展望——二世紀型学習成果をベースに 山田礼子著 A5・上製・二九八頁・三八五〇円 教職協働による大学改革の軌跡 村上雅人著 A5・並製・二五六頁・二六四〇円 学生参加による高等教育の質保証 山田 勉著 A5・上製・一四四頁・二六四〇円 世界のテスト・ガバナンス——日本の学力テストの行く末を探る 佐藤仁・北野秋男編著 A5・上製・二四四頁・三三二〇円 アメリカ教育例外主義の終焉——変貌する教育改革政治 ジェフリー・ヘニグ著 青木栄一監訳 A5・上製・三二〇頁・三九六〇円 カナダの「開かれた」学校づくりと教育行政 平田淳著 A5・上製・三六〇頁・四二九〇円 女性の大学進学拡大と機会格差 日下田岳史著 A5・上製・三〇四頁・三九六〇円 エビデンスの時代のFD——現在から未来への架橋 A・L・ビーチ他著 林透・深野政之他訳 A5・並製・二四八頁・三〇八〇円 大学教授職の国際比較——世界・アジア・日本 有本章編著 A5・上製・三三六頁・四六二〇円 台湾における高等教育多様化の論理 廖于晴著 A5・上製・二四〇頁・三三二〇円	〒113-0023 東京都文京区向丘 1-20-6 http://www.toshindo-pub.com 東信堂 TEL03-3818-5521 FAX03-3818-5514 Email tk203444fsinet.or.jp
--	--

コロナ禍のなか、
子どもの
自殺が急増！



教師にできる 自殺予防

子どものSOSを見逃さない

中央大学客員研究員／前防衛医科大学校教授
高橋聡美

教育開発研究所

子どものSOSを見逃さない

教師にできる 自殺予防

子どものSOSに
気づけていますか？
自殺を減らすために、
教師が今できること

A5判／176頁／定価（本体1,800円＋税）



高橋聡美

中央大学客員研究員／前防衛医科大学校教授

鹿児島県生まれ。自衛隊中央病院高等看護学院卒業。東北大学大学院医学系研究科で博士（医学）を取得。2006年より自死遺族支援など自殺予防活動を開始。児童生徒・教員・保護者向けのSOSの出し方・受け止め方の講演を全国で行っている。

「死にたい」の手前の「生きづらさ」に手当をすることで、子どもの自殺を減らすことは必ずできます。コロナ禍で自殺者数が増えているなかで、教師が目の前の子どもたちの自殺を防ぐために今できることを、著者が全国で行っている自殺予防のための授業や研修の実践をふまえて提示します。

本書の内容

- 序章……コロナ禍に起きた子どもの自殺の急増
- 1章……子どもはなぜ自殺するのか
——子どもの自殺を理解する
- 2章……どうしたら子どもの自殺を止められるのか
——教師ができる自殺予防
- 3章……自殺しない・させない子どもをどう育てるか
——自殺予防のための授業
- 資料編……日本の自殺対策の経緯と制度

ご注文は、小社、Amazon、書店まで。小社は送料無料・即日発送！（午後3時到着分まで・土日祝日除く）

WEBからのご注文なら早くてカンタン！

■ オンラインショップ：教育開発研究所 検索



電話 03-3815-7041

無料FAX 0120-462-488

教育開発研究所 〒113-0033 東京都文京区本郷2-15-13 TEL03-3815-7041

日本教育経営学会第 61 回大会プログラム

発 行 日：2021 年 4 月 18 日

編 集：日本教育経営学会第 61 回大会実行委員会

〒739-8524

広島県東広島市鏡山 1 丁目 1-1 広島大学教育学部 曾余田研究室内

日本教育経営学会第 61 回大会実行委員会事務局

委 員 長：林 孝（広島大学名誉教授）

事務局長：曾余田浩史（広島大学）

幹 事 長：米沢 崇（広島大学）

委 員：曾余田順子

諏訪 英広（川崎医療福祉大学）

金川舞貴子（岡山大学）

村上 真実（広島都市学園大学）

山本 遼（大分大学）

共 催：広島大学教育学部